

■パブリックコメント内容

該当箇所 (ページなど)	ご意見等の内容	対応
p2	×和泉→和水 訂正 2カ所	修正します。
p3 9行目	×1996年→1956年に訂正	修正します。
p3 20行目	近年は宅地開発等により→森林開発しての宅地開発のイメージはあまりないと感じますが、具体的にはどこのことでしょうか？	宅地等の面積の増加及び開発等によるものと修正します。
p3 21行目	不法投棄の増加等による地下水への影響が懸念されています。→具体的にはどのような事象でしょうか？	環境への影響が懸念されるものと修正します。
p4～	データが古いと思います。平成27年から令和2年の国勢調査のデータに変更して作り直してほしいと思います。	令和2年の国勢調査のうち結果が公表されているもののみ令和2年のデータを使用し作成しています。
p5	世帯特性のグラフ区分名→わかりにくい。単身世帯、夫婦と子どもから成る世帯、夫婦のみの世帯、ひとり親と子どもから成る世帯に表示を変更する方が良いと思います。	類型別世帯数に修正します。
p10	せきすい斎苑の位置が和水町に入っています。	修正します。
p12	最新のデータではなく、平成27年度決算を出している理由をお聞かせ下さい。	最新データへ修正します。
P14	1.南関町総合振興計画 第六次基本構想・基本計画(平成30年12月)について ■まちづくりの基本理念 の解説 住民すべてが、「自分たちのまちは、自分たちの手で」という自治意識を持ち、住民、地域、行政がそれぞれの責任と役割を認識し協力し支え合う。 【意見】 理念の解説文章が将来像や目標に比べ、急に自己完結した感があり、もうすこし明言した口調にしてはどうでしょうか。 また住民にだけ自治意識の話があり、町内の住民は自治意識が低いと暗に言っているように読めます。(行政は執行する側だからこう言う書き方なのでしょうが) 個人的にはとても良いと思える理念なのでバランスを取った解説にさせていただきたいです。 ↓ 「ひとりひとりの住民、地域、行政すべてが各々の役割と責任を認識し「自分たちのまちだからこそ、自分たちの手で」という共通した自治意識のうえで協力し支え合える町を目指す。」	総合振興計画に記載している文言を抜粋しているものですので修正しません。
p14 20行目	確認→新たな企業支援	修正します。企業→起業
p20	■維持管理方針 について 8)住民との情報共有 「・計画の推進に当たっては住民との問題意識や情報の共有が不可欠であるため、公共施設等のあり方について住民目線に立った幅広い議論を進めていくとともに、公共施設等に関する情報について、各種広報媒体等を通じ、これまで以上に積極的に開示する。」 【意見】 前段にあるフォローアップの文章が分かり易いのに対しこちらは違和感を感じました。 こちらはどのような姿勢で情報開示する、もしくはどう合意形成していくのかという方向を軸に書いた方が良いかと思います。 住民目線に立つという表現は住民そのものではないように感じます。 より住民の意見を汲んでいくという内容にしてもらいたいです。 ↓ 8)住民との情報共有 「・計画の推進をするに当たっては住民との問題意識や情報共有が不可欠である。そのため計画のある公共施設に関しては早い段階から各種広報媒体等を通して詳細に計画を知らせる。また、状況によっては今後の公共施設等のあり方についての幅広い意見を聴取する。」	公共施設等総合管理計画に記載している文言を抜粋しているものですので修正しません。

p27	3)現在住んでいる地域の活性化のために必要と思うこと 【意見】 前出(P25)の横棒グラフは詳細な数字があるのにこちらの三小校区、四小校区には無いです。	修正します。
p38	(2)転居意向 1)転居等の意向 ○持家(戸建て+集合住宅)が概ね8割(77%) 【訂正ではないでしょうか】 ↓ ○持家(戸建て+集合住宅)が概ね8割(75%)	5)住まいの状況の持家(戸建て)73.9%、持家(集合住宅)3.1%の合計76.9%を四捨五入して77%と記載しています。
p54	(2)町全体に係るまちづくりの課題 3 歴史的環境に関する課題 ◆古民家等を活用すべき 【意見】 前出のアンケート結果のどこにも古民家の話などはないです。キャッチワードですが、唐突というか話が飛躍しているような気がします。	空き地や空き家の課題として整理します。
	5 生活環境に関する課題 ◆中心部を再生し、まちなか居住を促進すべき 【意見】 町の施策の方針はそうなのかもしれませんが、前出のアンケート結果からは、正直なところ(中心部)の再生やまちなか移住がべき論で住民にそれほど望まれているとはどうも思えなかったです。 話が飛躍しているのではないのでしょうか。 この後も何度も今後もなにか出てくるようですが、施策として有効となぜ期待できるのかの背景がデータからは弱く、まちなか移住論自体が当事者たちにとってに本当に望まれているのかが疑問があります。	ワークショップ等において、中心部のさみしさや南関町の玄関口としたいといった意見をもとに課題として整理しています。
	◆交通弱者への買物・通院等支援策の一層の周知を図り利便性をアピールすべき 【意見】 この一行だけ他の箇所より課題解決力が弱いようです。アピールすべきと強調されているが、課題解決とするなら今後増加する同様の課題への施策の充実を計画する段階かと思えます。 ↓ ◆交通弱者への買物・通院等支援策の周知と一層の充実を図る	乗り合いタクシーのPRが不足しているといった意見も含め、課題として整理しています。
	6 子育て環境に関する課題 ◆地域で子どもを育て見守る活動をより活発にすべき 【意見】 前出のアンケート結果から、地域で子どもを育て見守るという活動がどこからきているかわからないです。仮に支援センターを指しているのならば、そこは活動の表記ではなく施設かと思えます。	ワークショップ等において、見守りの必要性に対する意見が出ていることから課題として整理しています。
p56	4 産業・雇用に関する課題 ◆商店街の個性化を図るべき 【意見】 整理された現状データから、個性的化を目指す流れには読み取れないです。まるで個性がないことが課題で個性があれば解決と言ってるように聞こえます。個性の言葉は使わない方が良いでしょう。 ↓ ◆その時々の方々のニーズに対応した商店街を模索する	「まちのニーズに合った商店街」と表現を修正します。
	6 子育て環境に関する課題 ◆小さな子どもを遊ばせる遊具のある小公園をつくるべき ◆通学路の安全性の向上を進める必要がある 【意見】 これらに加え委員からでた学力に関する言及がないのが不自然です。	学力向上については教育委員会では対応することから本構想では言及しません。
p61	5 生活環境に関する課題 ◆ 住民はあまり住みやすいとは感じていないため、居住環境の整備を進めるなど、住み心地の良さを高める施策の検討が必要 【意見】 委員意見から満足度が高いとあるのに対し町民アンケート町内企業アンケートでは住みにくい声がある。難しいでしょうが施策にはどちらの声も活かす方向	文言を修正します。

	<p>で進めていただきたいです。</p> <p>↓</p> <p>◆ 住民流入が他校区より多いことから住みやすさについて多様な意見がある。状況を慎重に見きわめたくうえで住み心地の良さを高める施策を検討する必要がある</p>	
p65	<p>1)周辺4市と連携したまちづくりの将来像について</p> <p>【意見】</p> <p>まちづくりの基本理念があるのだから将来像の第1項目めから周辺地域の話を持ってくるのは違和感があります。</p> <p>雇用や余暇の過ごし方など他所地域の魅力も南関町の構成要素かもしれませんが、まずはそこは置いておいて、南関町の話から話すべきかと思います。</p> <p>ハナから他所地域があるから南関町に住みたくなり未来像があるという結論から入るより、P67にある4点トッパという施策の目指す未来像を最初に語ってほしいです。他市町村は南関町に付随した付加価値でしかないと思います。</p>	<p>周辺都市との関係も本町の特性の一つと考えています。</p>
p67～p75	<p>トッパ2、トッパ4</p> <p>住む場所づくり</p> <p>協働のまちづくりに向けた</p> <p>※全校区共通</p> <p>トッパ1にある魅力づくり、トッパ3の拠点づくりで魅力づくり特性を活かすというというのは現実的で良いのですが、それを進めることは意識の格差や恩恵の享受度合いが異なることから大なり小なりでしょうが不満が高まると予想します。</p> <p>個人的には町民全体の共通項となるトッパ2とトッパ4の内容を最も分厚くし、踏み込んだ議論材料となる施策とする必要を感じます。</p> <p>トッパ2とトッパ4を町全域の施策でありもっとも重要な未来像と思います。</p> <p>正直トッパ1、トッパ3は、校区個別の案件なのでこういう並び的にはこちらを真っ先に挙げずに3、4の位置にしたいところです。</p> <p>この先も出てくるトッパ1とトッパ3は相関関係になるケースが多く4本柱ではなく3本もしくは2本柱ではいけないでしょうか。</p> <p>個人的には個性の先鋭化を口にするたびに地域の分断を助長している感はあり、あまり大声で訴えるものではないと思います。正直、内容によっては耳にもしたくありません。</p> <p>エリアの個性を伸ばすのは良いことですが暗に序列をつけているようで、故郷のありかたとしては一歩間違っていると怖いと思えます。</p> <p>正直、素晴らしいものだけど地域のそれぞれの誇りを無視したように受け取れるセンシティブなものだと思います。</p> <p>各校区のトッパ3を意地悪に読むとこうです。</p> <p>読み手が悪いと言えばそれまでですが、そもそもそう読めない構成にしてほしいです。</p> <p>※例)第一校区トッパ3 南関の顔となる魅力ある交流拠点 →やっぱり南関町役場は第一校区が顔であり、あとはおまけと思っているのか。やっぱりか。</p> <p>※例)第二校区トッパ3 伝統産業を生かしたふるさと体験の拠点 →他の校区の伝統産業が生まれることはないがしろなのか</p> <p>※例)第三校区トッパ3 新旧の住民がふれあう新しいコミュニティ拠点→他の校区にそういうコミュニティが生まれることは望まれていないのか？</p> <p>※例)第四校区トッパ3 企業と連携した新しいふるさと活動の拠点 →他の校区は企業連携は推し進めないのか。何が違うのか。</p>	<p>本町は様々な課題を抱えており、そのすべてを短期間で解決することは現実的ではないため、町や校区の資源を活用したまちづくりを進めることとしています。</p> <p>本町を魅力あるまちとするには4つの校区の連携が重要であることから、校区ごとに拠点をつくる「点」と、校区の資源を活用し校区の魅力をつくる「面」でつくることは、区別して考えています。</p>

p67～	第7章地域未来構想(3)施策の展開 トップ1～4 すべてに《行政と住民、事業者等が協働で行うこと》と記してありますが、一つ一つの施策を誰が行うのが不明です。これは行政、これは行政と住民というふうにそれぞれの項目に主体を記す必要があると思います。そして住民の誰が行うのかまで明示しなければ曖昧なまま終わり、絵に描いた餅になってしまうことになりかねませんので、具体的な名前を明示することが肝要です。	現段階では主体を明確化することは難しいため現状の表記のままとします。
p80	4) 検討結果について 旧庁舎跡地とうから館の利活用については、さらなる検討が必要と考えます。 ・図書館は現地での継続利用が適当。伝統工芸館や郷土資料館などは不要と考えるがどうか。 ・うから館の管理は、社会福祉協議会が移転して担う事とし、子どもと高齢者の遊びの拠点として賑わう場を作る方向で進めてはどうか。 ・うから館下校(希望すること子ども)を行ってはどうか。学童保育に通う子ども以外を対象として ・旧家族風呂は小部屋としての利用なので、レンタルルーム、会議室、ウエルネスマージャン部屋等利用が見込める活用となるでしょう。 ・食堂は子ども達が勉強できるスペースも確保し、地域食堂やチャレンジショップスペースとして利用するのが適当でしょう。 ・大風呂は小ホール利用が適当でしょう。	うから館の具体的な活用方法や管理者については令和4年度に引き続き検討する予定です。
p83	1)モデル地区の整備(まちなか再生事業) 2)まずは、各校区一つの魅力づくり 3)空き家の活用モデルづくり 4)新たな通院支援策の構築(南関町デジタル化推進計画の実現に向けた環境などの先導事業 ↓ 中長期 推進事業 の流れは南関4点トップの順序と相関関係にあるのでしょうか。もしそうだった場合、ここまで読まないといけないというのはちょっと問題があるとおもいます。仮にそうなら第7章の冒頭で南関4点トップの紹介と並行して推進順序であると触れておくべきかと思います。 矢印の下に「町民や民間事業者、関係機関や関係団体等への働きかけを通して、着手可能な施策(事業)から順次展開していきます」という言葉あるのはとても良いと思います。 字面的には一見計画性が弱いようなワードですが今後、町のスケールや住民の要望、行政の動き方が刻一刻と変わっていく中で「着手可能な施策から展開していく」という視点はとても重要で、町民に深く理解してもらう必要があると思います。 町の状況を鑑みて挙げた項目一つ一つ着実にやるという強いメッセージが良いと思います。	4点トップの順序との相関関係を意図したものではありません。ご指摘の通り、着手可能な施策(事業)から順次展開していくことを意図したものです。
p83	4. 実現化に向けて 行動主体としての住民自治組織を校区別に作る事が先ではないでしょうか。まずは魅力作りから進める案ですが、“魅力作り”で集まる人は少ないのではないのでしょうか。呼び出されてのやらされ仕事では続かないのではないかと危惧します。 まずは、地域が抱える様々な課題や問題を解決することを掲げたいかかでしょうか。同じ問題意識を持つ町民が集まり知恵を出し合うことでそこにエネルギーが生まれ動き出す可能性はこちらの方が高いと考えます。自分達の校区の課題解決や未来創造はまずは自分達でやってみる。組織化を進め、この意識を広げることが様々な案件の実現化の早道だと考えますが、いかがでしょうか。	P85 の段階的な体制づくりのイメージに記載のとおり、まずは自分たちでやってみることから始め組織化を検討していくこととしています。
p85	体制づくりのイメージは分かりやすく良いと思いますが町職員をわざわざ図で分類するには違和感があります。 なんらかの意識が垣間見えます。 町職員も基本的には1町民とカウントすべき。 参加する者しない者、途中で入る者、抜ける者全て町民もしくはその関係者というだけです。 みんなが構成員だと思うのならその方が自然です。	P85 の校区担当制を目指し、行政として町民とともにまちづくりを進める姿勢を示すことを意図した表現です。
p86	ありかたに合わせた組織体制の図案 それぞれの可能性を示唆してありとても良いと思います。複数提示してあることにチャレンジのしがいがあると思い、自治体の懐の深さを感じます。	ご意見としてお伺いします。

p86	<p>参考)校区担当制のイメージ A:担当窓口型が適当でしょう。 担当課から校区別住民自治組織の事務局として、職員を一人ずつ配置。 南関町地域未来構想 →地域の未来(課題解決・未来創造)は地域(住民)に任せる。 先ずは、組織作りのための準備委員会を作るところから始めたらいかがでしょうか。</p>	<p>P85 の段階的な体制づくりのイメージに記載のとおり、まずは地域の有志でやってみることから始め組織化を検討していくこととしています。</p>
-----	---	---